

公開講座「日本語で国際交流」のご報告

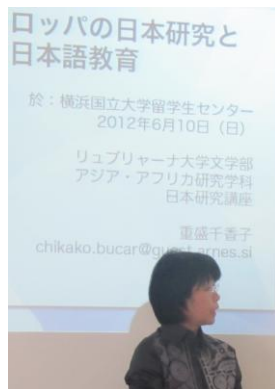
日時：2012年6月10日 13:00～15:00

場所：留学生センター 306 教室

2011年度に引続き、「日本語で国際交流」と題する公開講座を開催し、以下のように二つのセッションを設けた。一つ目は、日本語教育の教育現場に関する講義、二つ目は留学生との交流を目的としたセッションである。

第一セッション：背景を知る

各地の日本語教育の現状や留学生の背景を知ることがを目的に、今回は、中央ヨーロッパに位置するスロベニア共和国のリュブリアナ大学の様子をうかがった。



講師は、同大学文学部日本研究講座主任、重盛千香子氏（専門は対照言語学、日本語教育、2009年外務大臣賞表彰）、人口約200万人のスロベニア共和国で、毎年約60名がアジア・アフリカ研究学科の日本研究コースに入学し、入学時には、ほぼ全員が日本のアニメや漫画に関心を持ち、武道や工業製品名は知っているが、日本に関してはそれ以上の知識はあまり持っていないとのこと。高校までの過程で使用する教科書には日本に関する記述がほとんどないために、それを加筆・訂正することこそが当学科在学生・卒業生の目下の課題であるとのことであった。日本との交流

は高校レベルでも進みつつあり、協定校等への日本留学も以前に比べてかなり盛んになってきているとのこと、卒業生が日本語を生かして仕事を見つける機会はきわめて少ないとのことであった。

第二セッション：留学生との交流

1. 留学生によるショートスピーチ

横浜国大在学中の4人の留学生に5～10分程度のショートスピーチをしてもらい、会場からの質疑応答を受けた。ブラジルからの留学生であるフェルナンド・シルベイラ君は『日本への挑戦』というタイトルで、高校時代にロータリー青少年交換留学生として愛知県大府市に1年間滞在した経験をもとに、「日本人達が優しさを失わずに、これからも私のような外国人も含めてますます多くの人達に対して優しい社会を持ち続



けてほしい」と語った。



オーストラリアからの留学生であるサイモン・ノレイカ君は『日本留学』というタイトルで、高校時代、大学時代の2度にわたる日本留学経験について語ると同時に、「留学と言うのは、自分の居場所から出て、違う文化に跳んで行って冒険するものだ」という自らの留学観を述べた。

母国韓国では小学校の教員でもあるキム・ユンジョンさんは『韓国と日本の教育～教員研修から見てきたこと』というタイトルで、韓国での授業風景をビデオで見せながら、漢字教育を中心とした日韓教育比較についての見解を披露した。最後に、昨年10月に来日した中国の方群さんは、「私にとっての日本印象物語」という



印象的なタイトルで、英語教師らしい視点から、中国語と日本語のシンタックスや、語彙の違いに触れながら、日本語学習の苦勞と楽しさについて述べた。日本語学習歴わずか8ヶ月の方さんの堂々たるスピーチに、会場からは大きな拍手が送られた。

2. 交流会

くじ引きにより決まったグループ内で、留学生と一緒に飲みながら、本日来場の理由を含めて自己紹介を行った後、それぞれのグループで交流を行った。

短い時間ではあったがさまざまな話に花が咲き、終了を惜しむ声が多く聞かれた。交流の最後に各グループでどのような話がなされたのか、グループの代表に発表してもらったところ、中国の簡略化されてきた漢字、オーストラリアのスポーツ文化、ブラジルや日本の食文化、韓国での漢字の位置づけなど、さまざまな内容が紹介された。また、今後秋に予定されている留学生のスピーチ大会や国大ボランティア登録について説明がなされ、多くの参加者がさらなる国際交流の場に興味を示していた。



20代から70代まで、またさまざまな職業、立場の方が参加した講座終了後には、中央ヨーロッパにおける日本語教育の最新の話が聞けて大変興味深かったこと、現在留学を

考えているので、外国から来た学生の話が大変参考になったこと、留学生の話がとてもおもしろく、今後ももっと交流をはかりたいと思ったこと、留学を志す娘の留学に不安を持っていたがこの講座に参加して、留学させることがいかに人間を成長させるかわかったこと、外国人の方たちとのコミュニケーションをとりたい気持ちはあるが日本語しか話せないため今回の機会が嬉しかったこと、国大ボランティアにも興味があること、秋のスピーチ大会にも参加したいことなど、様々な声が寄せられた。とくに、2時間という時間を広げてほしいという意見が聞かれたが、これは、今後の参考にしたい。

